

# 浴室設計

第2回

矢板久明 + 矢板直子

聞き手

中辻正明

## 水回りの ファンクションと生活動線 をたがわずねて から導かれる浴室

住宅の中でも、ディテールの難しい空間が浴室とされています。止水・排水・湿気などを考慮しながら美しくデザインをまとめるためには、深い知識が必要です。同時に、たとえ水仕舞いといえども正解は一つではなく、建築家によってそのアプローチの方法も異なります。本連載では、浴室の空間的な位置づけからその納め方までを含めた、建築家の浴室設計の流儀を解き明かしていきたいと思います。(編集部)

「打越の家」の水回り

中辻 一般に、浴室を2階以上のフロアにもってくるときには、防水面から考えればリスクも増えますし、ディテールにもかなり気をつかわなければいけなくなると思います。矢板さんの「打越の家」(2005)は浴室が2階にあります。おそらく、木造でも鉄骨造でも、ハーフユニットを使わずに在来でできるディテールをおもちなだろうと思いました。

矢板 「打越の家」のときは、水回りが2階だから危険だという発想はあまりなかったですが、FRP防水を床から壁の上部まで塗り上げ、これを露出させることで対処したつもりです。万が一のとき、補修できますからね。

この家はどちらかというと空間のフレームワークが先行してできたんですね。最初にお話をいただいたときに、予算は相当限られているし、本当に時間も無いというので、お引き受けできるかどうか悩んでいたら……。

矢板(直) お施主さんが「建具もいらない」とおっしゃったので(笑)。

矢板 「そこまで覚悟ができていいるのなら、やりましょう」とお引き受けして、設計から竣工まで7か月くらいでしたから、私たちの事務所としては短期間なんですよ。

矢板(直) お金も厳しいし、在来木造では間に合わないの、まず足場をなくして、とにかく塗装した木を組み立てて上棟したら、構造をガルバリウムの折板でくると巻いたらおしまい、という考え方です。

矢板 水回りスペースの奥行きは6.3mあって、端から見渡せるんです。竣工した日にご主人から、「お風呂広いで

すよ！」って電話がかかってきた(笑)。矢板(直) バスタブに寝てこの長さを感じてみたら、「非常に豊かなお風呂だった」と喜んでいらっしやいましたね。

中辻 水回りの長さにも驚きますが、プロポーションがすごいですね。

矢板(直) どちらかといえばプランが優先しているかもしれない。計画上の幅が最初に出てきて、そこに納めるにはどうするかと考えていきました。お風呂がどうあるべきかという話ありきではないですね。

中辻 プランの中にたまたまお風呂が入った、という感じでしょうか。

矢板 ここでは構造を先行して検討して、ファサードにプレースの入るゾーンが出てきたので、いわゆるサーバントスペース、サブドスペースの関係は帯状の空間構成がいいだろうと考えました。そういう大きなスキームの中で、一方に階段を、もう一方には水回りを割り当てていったんです。

規模が小さい住宅は、私たちはお風呂と洗面とトイレをなるべく一緒にするようにしていますが、こういう細長いプロポーションもありだろう、ということでしたね。

矢板(直) 浴室の床は厚12mmの構造用合板2枚張り、FRP防水仕上げです。

あと、主寝室と浴室の間仕切り壁は、全部スイス製のカーテンレールで留まっています。自立した間仕切り壁が上までいっていないものですから、要はその振止めです。

中辻 すごいですね。鉄骨やRCで下から自立させたものはあるけれど、この真ん中の間仕切り壁は木造ですよ。

矢板 だから水回りの間仕切りは全部

カーテンを吊して終わりなんですよ。かなり大胆なことをやっていますね(笑)。

浴室は寝室の近くに

矢板 「打越の家」は事務所の中でもかなり特殊な例ですが、私たちは、そのプロジェクトごとにどうすれば最適解になるかを考えているので、浴室単体でこういう大きさがなければだめだとか、こういう仕上げにしたいといったこだわりはまったくありません。

中辻 建物の構成を考えていく大きな話の中に浴室がのってくるだけで、住宅ごとにその大きさも配置も位置づけも変わると。

矢板 最初から自分たちの意思をあまり強くもちすぎると、人の話を聞けなくなるので、とにかくまずは必要なことを積み上げて浮かび上がらせることに集中するんです。

矢板(直) ただ、浴室へのこだわりとして、浴室はなるべく主寝室に近づいて、少なくとも同じ階にするべきだろうという配置的なこと、それだけは守っているような気がします。

中辻 少し遠くなることはあっても、基本的には近くにということですね。

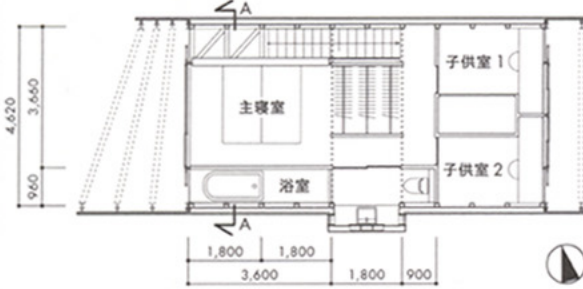
矢板 大体そうです。お風呂は寝室に所属すると理解しているの、それがずれるということはありません。

「teNEO」(2004)というモデルハウスでは、一般解として寝室の脇に浴室があって、かつその脇にユーティリティとキッチンが並ぶという、家事動線として一番理想に近い配置にしています。

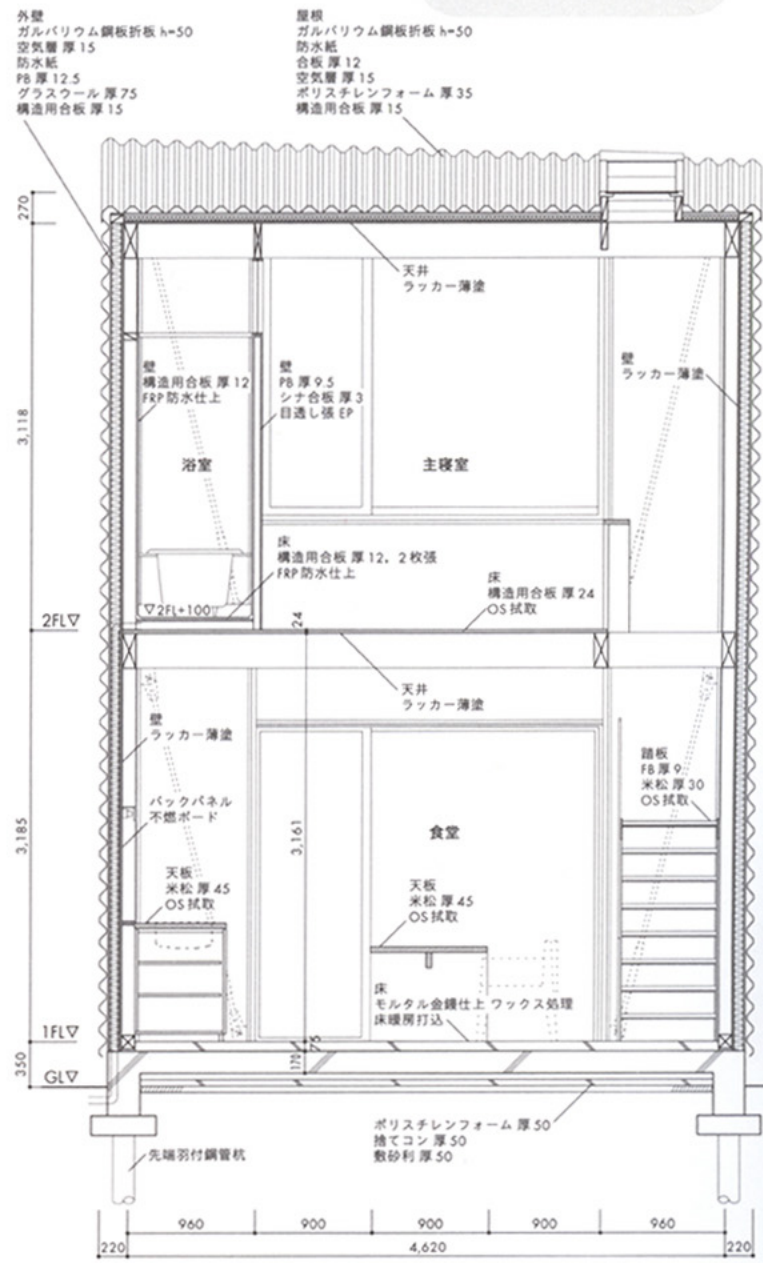
奥さんの書斎でもあるユーティリティからキッチンの鍋や洗濯機の様子が見えて、書斎机がアイロン台にもな



撮影：平井広行



2階平面 1/200



A-A断面詳細 1/60

り、アイロンをかけたらずぐその上の物干しパイプに干せる。水回りの空間を主婦のゾーンとして、動線をどう確保するかということを中心に考えています。

矢板(直) キッチンとユーティリティは天井高を高くしてトップライトを設けて、とにかく奥さんが日がなここにいて気持ちがいいようにしました。大体、台所というのは家の隅のほうで、じめじめして風通しも悪いし、居心地がよくないというイメージが昔からあったのですが、思いきり気持ちよくしてあげようと思ったんです。

矢板 この平面構成に加えて、本当はいわゆるランドリールームがあればベストでしょうね。

矢板(直) 日本の住宅では物干し場というのは、家の中で場所が確保されていないんです。浴室に干したら、お風呂に入るときにはどこかに移動しな

くならないし、そこでも見苦しいからまた浴室に移動してと、しょっちゅう洗濯難民みたいに移動することになってしまう。



「teNEO」1階平面 1/200

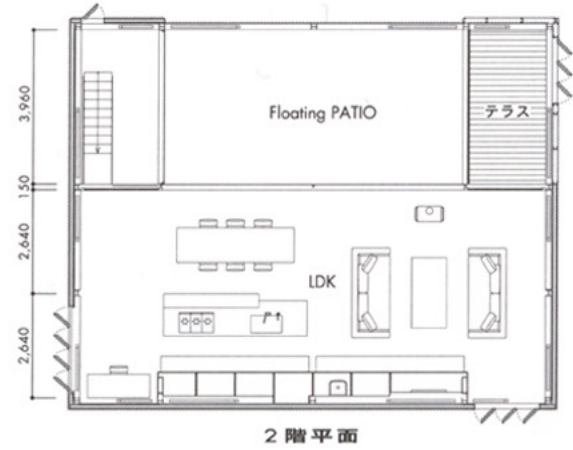


ガラリ戸を開けるとユーティリティが現れる

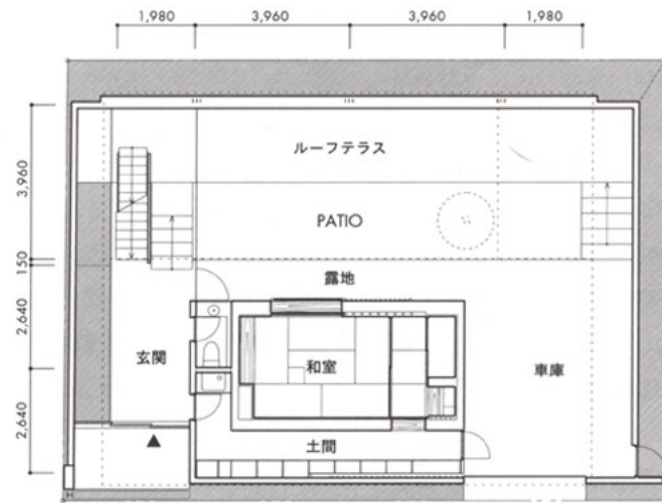
撮影：畑 拓 (110頁まで、特記なきものすべて)



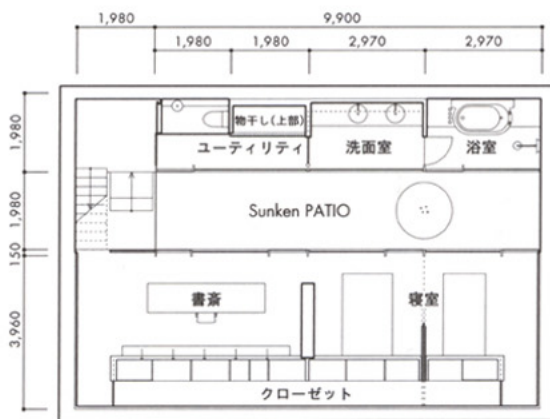
撮影：小川重雄



2階平面



配置・1階平面



地下1階平面 1/200

「PATIO」の水回りの空間は地下の階段踊り場と一体のヴォリュームに納められ、床と長手の壁が連続するように、同じ大理石モザイクタイルが張られている。これは、寝室からの動きと、玄関から階段を下りてくる動きをこの空間が受け止め、それぞれの空間をつなぐ位置づけにあることを強調することを意図したからである。さらに、このヴォリュームを独立した空間として扱いながら、少し浮かすように置くことで、3層のPATIO空間に流動性をもたせ、相互にこれらをつなぐ役割を担っている。言わばこの存在と扱いがこの建築を成立させる要となっている。

**ディテールの検討は、  
プランニングの意識と同じ**

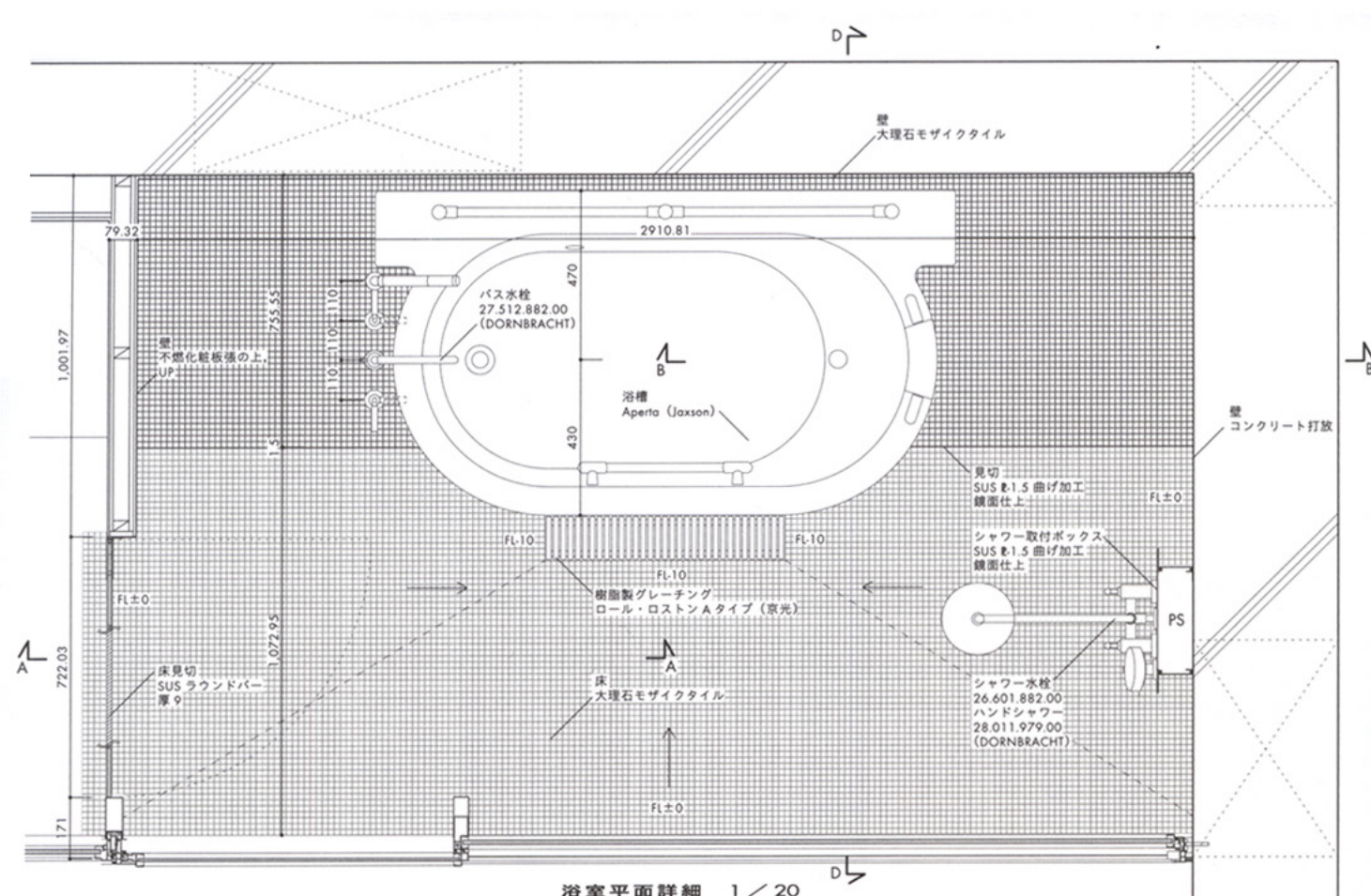
矢板 ユーティリティや物干し場まで含めて水回りを考えるというのは、「PATIO」(2011)にもよくあらわれていると思います。浴室、洗面室、物干し場にもなるユーティリティがあって、それと連続して半外部の空間がある。ユーティリティスペースで洗濯をしたら、そのまま上にあるパイプで干すこともできるし、アイロンがけもその場でできます。

こういう主婦の動線というか、生活

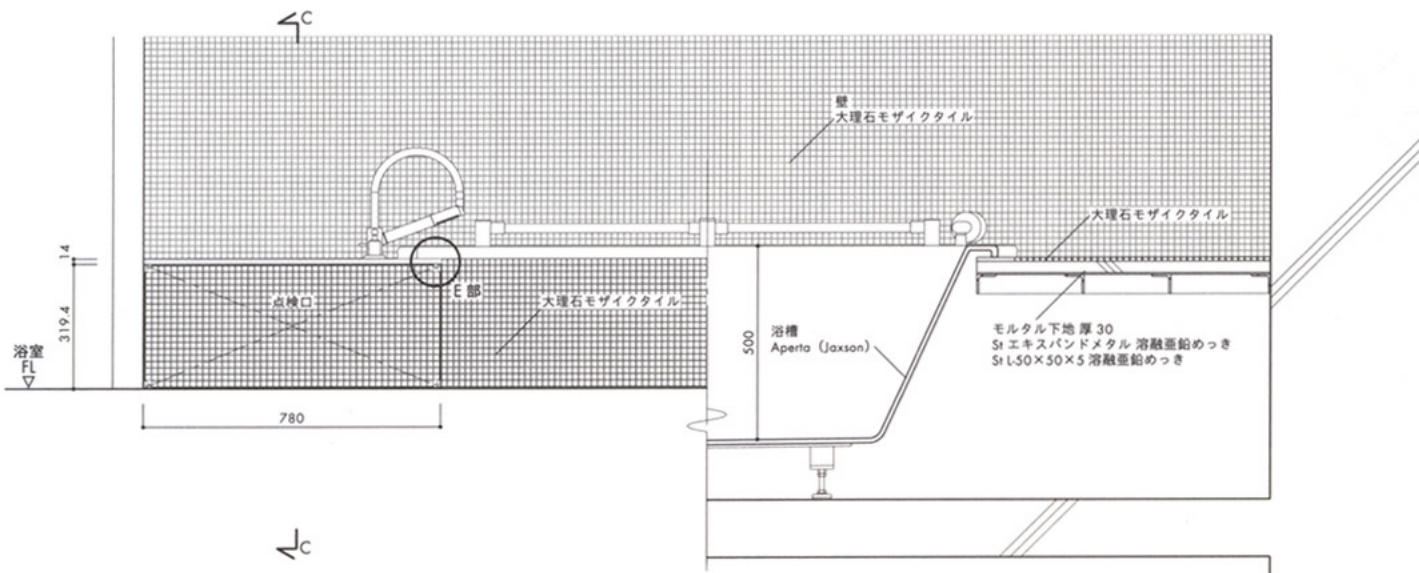
動線も含めた水回りのファンクションをどう確保するかが第一で、表現として浴室空間をどうするかというのは二の次です。ゆとりがあればもっと大きな浴室空間にしていけばいいのですが、そのファンクションを最低限確保することすらなかなかできない。矢板(直) 動線はすごく細かく考えますね。

「PATIO」では、旦那さんは書斎側のベッドで寝ているんですが、奥さんが朝早く起きたときに、旦那さんを起こさないで裏側から通れるように、クローゼットのスペースを確保しながら、その動線もとっています。

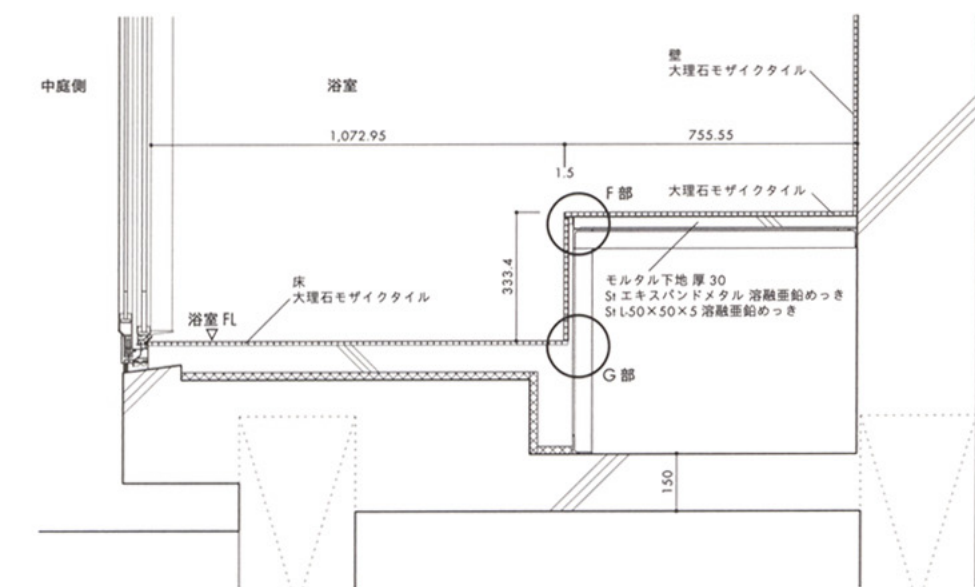
中辻 なるほど。間の建具を引き込んでしまえば、1室にもできるようになっているわけですね。矢板 計画学の先生みたいなところがある(笑)。一方で、ディテールをどう考えているかという、プランニングをしている意識とまったく同じ感覚なんです。だから、新しく入ったスタッフには「ディテールを考えると、プランニングするのと一緒なんだよ」と教えています。意識としては同じなのですが、ディテールを考えるときは、建設するプロ



浴室平面詳細 1/20

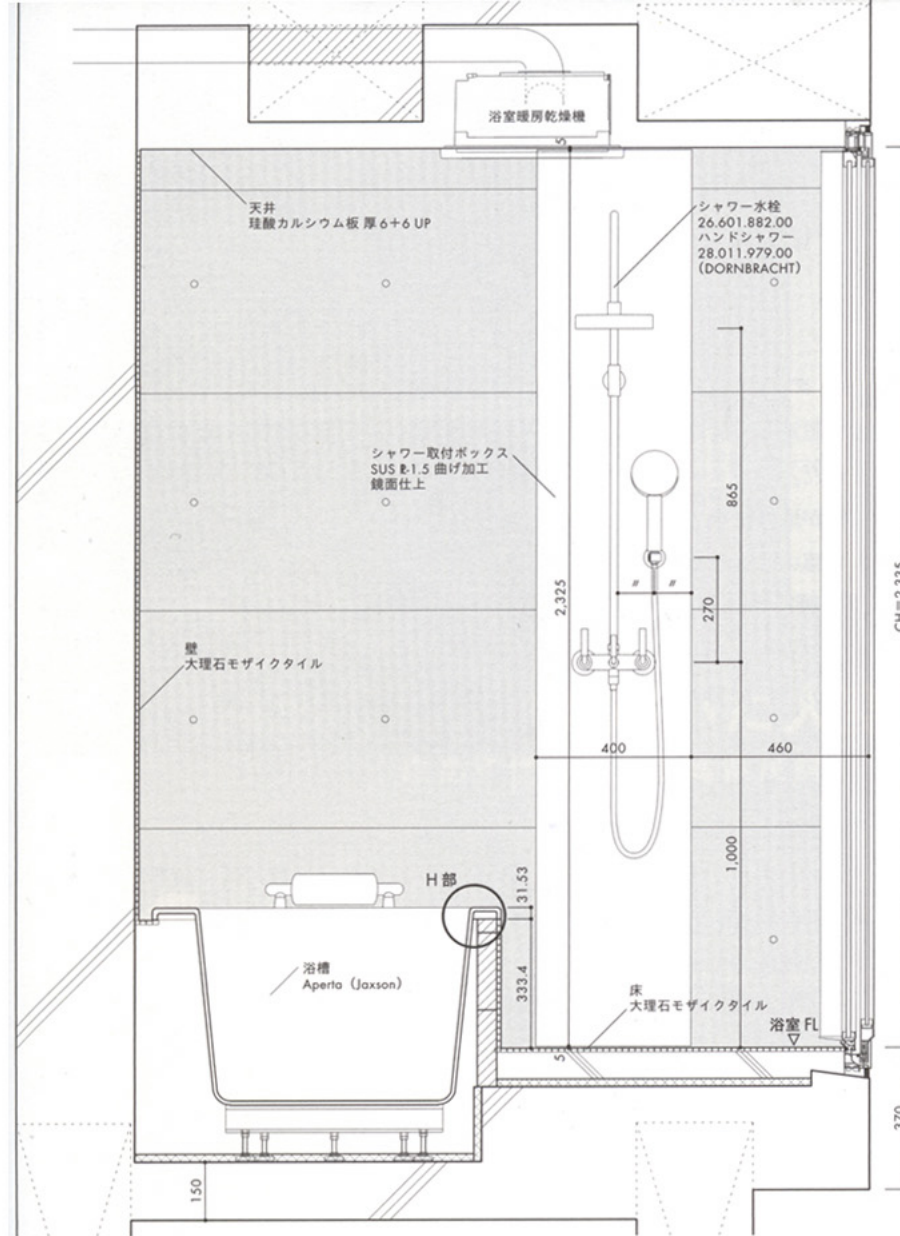


A-A, B-B 断面詳細 1/20

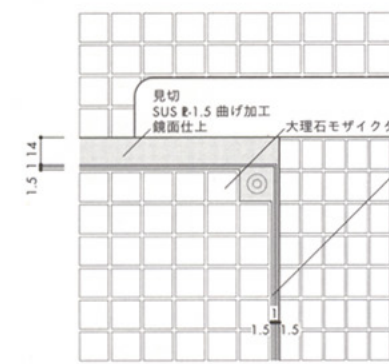


C-C 断面詳細 1/20

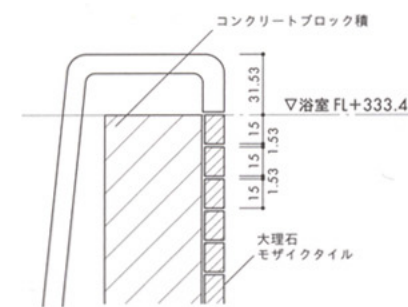
設計/矢板建築設計研究所 施工/日南鉄  
 構造・規模/鉄筋コンクリート造+鉄  
 骨造・地下1階 地上2階 防水種別/コン  
 クリート防水(コンプラスト) 主な使用  
 機器/浴槽: Aperta (Jaxson), シャワ  
 ー水栓: 26,601,882.00 (DORNBRACHT/リ  
 ラインズ), ハンドシャワー: 28,011,979.00  
 (DORNBRACHT/リラインズ), バスシャ  
 ワー水栓: 27,512,882.00 (DORNBRACHT  
 /リラインズ), 樹脂製グレーチング: ロ  
 ール・ロストンAタイプ(京光) 竣工/  
 2011年11月 所在/東京都



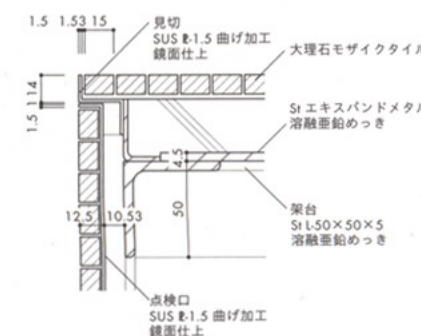
D-D 断面詳細 1/20



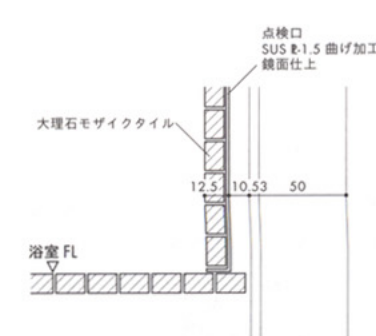
E 部詳細 1/4



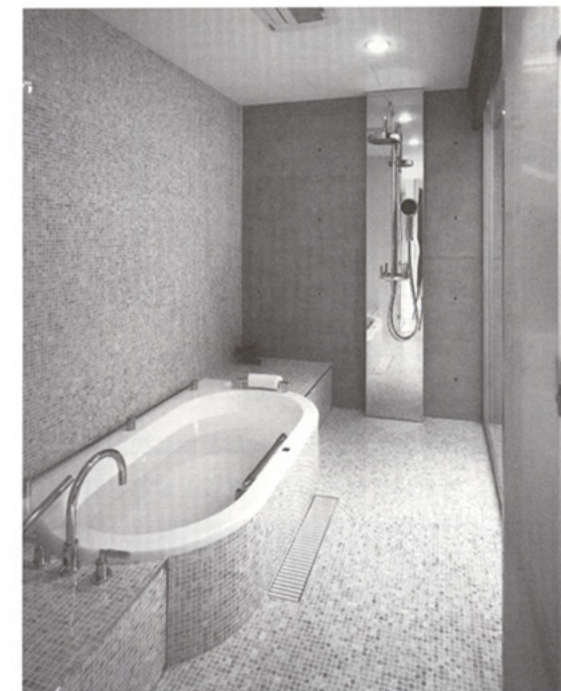
H 部断面詳細 1/4



F 部断面詳細 1/4



G 部断面詳細 1/4



セス、つまりつくるといふ行為と手順  
 からもう一度ものを見直して、それを  
 美しく整えていくという思考もしてい  
 るわけです。たぶんそれは施主の要望  
 を聞いて、平面の細部に落とし込んで  
 いく作業と似ているのだと思います。

#### 「PATIO」の浴室ディテール

中辻「PATIO」の浴室のディテールに  
 ついて少し具体的にうかがえますか。

床排水の勾配は1/75~1/125と  
 緩い勾配に、グレーチング蓋の大きめ  
 の排水口です。この組合せの納まりで  
 設計されることが多いのでしょうか。  
 矢板 強い勾配にするとタイルの割付  
 けがうまくいかないので緩くして、大  
 きめのグレーチングで受けて、壁周辺  
 とタイルの取合いも水平が保てるよう  
 にしました。ここでの水の流れは、何  
 とか溜まらないという感じです。通常、  
 壁に勾配を出してもいいときはもう  
 少し急な勾配を採用しますね。

金物は、床で強く主張するものを付  
 けたくなかったので、樹脂製の白いグ  
 レーチングにしました。肌の近くにあ  
 ってもいい感じのものが欲しかった  
 からです。

中辻 浴室と洗面室のガラス扉の下に

ステンレスの床見切り材がありますが、あえて入れておられるのはどういった理由でしょうか。

**矢板** 大量に水を使ったときに洗面室に流れ込まないように、立ち上がりを設けています。グレーチングで受ける方法もありますが、床面がうるさくなることと、グレーチングの表面が水が走って隣室に流れ込むこともあるので、浴室と洗面室の床をフラットに納めつつ、見切り材（ステンレスフラットバーの上部を半円形に丸めたラウンドバー）で少し立ち上がりを設ける納まりにしました。

**矢板（直）** 浴室の水栓金物は、お施主さんのご希望で、ドイツのドンブラハ（DORNBRACHT）です。そうしたら、ドンブラハのマニュアルに「点検できるようにしなさい」と書いてあったんです。「それでは！」ということで浴槽両脇のエプロン前面を開くようにしています。なるほど、高級とはこういうことかと勉強になりました。下でパッキンなども替えられるし、清掃やメンテナンスができます。

**中辻** これは両側の部分だけが見られるようになってるんですか。

**矢板** 下でつながっていて、それで全部見えるんです。汚れたら両方開けて水を流すと全部下に流れるようにしてもらっているんで、不潔な感じが一切ない。

**中辻** ユニットバスの浴槽のところを外れるものがありますが、結局、水栓や配管も交換できなかつたりして、何のために外れるのかわからないものもありますが、ここではとても真剣にメンテナンスのことが考えられていますね。

点検口の寸法はどのように決定されたのでしょうか？

**矢板** 浴槽用カランのメンテナンスと、内部清掃を想定してできるだけ大きくつくりました。

シャワー水栓が取り付けしているステンレスパネルも脇のビスを外すと、前面のパネルが外れるようになっていきます。壁が開放して立ち上がりがとれないので、パネルの裏に配管スペースをとっています。

**中辻** 壁に埋め込んだりしていないわけですね。そうすると、水栓器具を外して、ステンレスパネルをとると、裏の配管が全部見えるということですね。**矢板（直）** はい。それに「PATIO」では洗面台も大変でした。タオル掛けなどの金物がステンレスの鏡面仕上げですが、それをドンブラハのクオリティに合わせなきゃいけないですから（笑）。

浴室にドンブラハの金物が入るのがわかった時点で、ステンレスの鏡面の研究ですよ。400番ではだめで、結局1000番になりました。

**中辻** もはや鏡と同じくらいのごい映り込みですね。

**矢板（直）** 私たちがお施主さんにやっついていったような感じですよ（笑）。だからこそこの家のクオリティが出たように思います。

#### スペックとディテール

**中辻** 私も含めて読者のみなさんは、矢板さんが手がけた住宅について、すごくディテールに満ちていて精巧につくられているという印象をもっていると思いますが、今回お話をうかがって、最初にディテールワークありきではない、というのは印象的でした。

**矢板** 全然そうではないですね。



浴槽両脇のエプロンを開閉することができる

スペシフィケーション（スペック）という言葉がありますが、意味としては性能を表示した仕様書のことで、建築の図面というのは、あるスペックでつくられるものの範囲図であるという理解もできるわけです。つまり性能についてきちんと描いて、それを実現するという事です。かつそれを美しくすることを目指すと、当然ディテールというものが出てくるわけです。

デザインや形が突出した建築を見ると、防水であったり、出隅の耐久性をどう考えているの？ それから溶接などの建設プロセスに対してどう考えているの？ そういうことに対して答えられないものが多いように思います。

だから、基本的にはスペックをどう考えていくかということがプランニングに、そしてディテールに反映されていくのだと思うんです。

**中辻** その結果としてのデザイン、見えてくるものが美しくあればいいと。

**矢板** そこをしっかりとつくっていくと「建築」になっていくわけで、スペックをどう担保するかを押さえて、その責任をきちんと取れるのがプロではないか、というのが私たちの考え方なんです。